

さまざまな領域をもつ心理学において、本学では「臨床心理学」「社会心理学」の2つの分野に重点を置き、学びを通して人と人との関係や、人と社会との関係を考えながら、「人間」への理解を深めます。講義で理論を学び、実習で技を身につけ、「学んだことを現実の社会の問題解決に生かす」ことを目指します。

本学の臨床心理学コースでは、発達心理、教育臨床心理、犯罪心理などたくさんの領域が学べます。非行心理臨床、青年期心理臨床、親支援を専門とする廣井教授は、非行臨床・家族臨床のフィールドに従事されていた経験から得た感覚を理論につなげ、社会へ還元する実践的な研究を行っています。



研究室紹介

社会学部 心理学科

HIROI Izumi

廣井 いずみ 教授

大阪市立大学大学院生活科学研究科後期博士課程修了。学術博士。家庭裁判所調査官として、少年事件、家事事件に携わった後、大学に転出。関西国際大学人間科学部を経て、2014年に本学着任。臨床心理士として奈良大学臨床心理クリニックでのカウンセリングも担当。著書は、「非行少年の立ち直し支援「自己疎外・家庭内疎外」と「社会的排除」からの回復」(金剛出版)など。

聴くことの大切さ

小さい頃から、人見知りのくせに人に関心があり、大学進学では迷わず心理学が学べる場所を選びました。将来を考えた時、人に直に接して、大学で学んだ心理学を生かせる仕事に就きたいと強く思い、家庭裁判所調査官(国家公務員)の仕事に進みました。

家庭裁判所では、少年事件に長く携わりました。家庭裁判所調査官の仕事は、事件の原因を調査し、改善策を検討するものです。仕事を始めた頃は、今まで遭遇したことのない犯罪の世界や、過酷な生育史を聞き、ただただ圧倒され、自分の学んだ専門性なんて小さなものに思え、一体、何ができるのだろうかという無力感に駆られる毎日でした。そんな時に先輩から、「少年に教えてもらうつもりで面接すれば良い」とアドバイスを受け、少し肩の力を抜いて、聴くことができるようになりました。聴くことに専念するうちに、次第に少年が事件を起こすに至った背景や心情が感じ取れるようになってきました。

多くの非行は綿密に計画された行動ではなく、場当たりのであったり、感情的に引き起こされたりします。でも、よくよく聞くと、非行に至るまでの心情が明らかにされる場合があります。最初は、少年本人も気づいておらず、面接の中で浮かび上がってくる人が多いのです。面接を重ねるうちに、少年の考えや態度に変化が生じることがあり、仕事のやりがいにつながりました。

非行少年の社会復帰を考える

非行少年の立ち直しについて探求したいと思い、10年ほど前に大学に移りました。立ち直りを支えているのは、公的機関だけではありません。この研究を始めて、行き場のない少年達の親代わりになっている会社経営者の方々や、非行少年達を支える、非行経験者の団体に出会うことができました。支援する人や団体が増えてきたのは心強いのですが、少年達が支援者につながる事が、十分にできていない実態があります。少年達が、どのように支援者につながって社会復帰できるようになるのかを、現在研究しています。

役立つ心理学の基礎

調査官の面接結果は、審判の役に立つよう、客観的な視点で整理し、論理的にまとめる必要があります。今思えば、データの集積から結果を導く基礎心理学の方法論が、役に立ちました。本学でも、仮説を立て、実験を行い、結果を分析、検討するという心理学の基礎を学ぶことで、根拠に基づいて主張する力をつけます。

また聴くことは、すべての対人関係の基本となります。聴くというと、受け身の行為のように思えますが、しっかりと聴いている時には、感じ取ったり考えたりと、心の中ではいろいろな作業をしています。このような能動的な姿勢を身につけるために、少人数の実習で、どんな聴き方が相手に「聴いてもらった」と受け取ってもらえるのか、確かめながら学びます。

メッセージ

本学では、社会で起きていることについて、心理学ではどのように考えることができるのか学び、さらに学んだことを社会の課題にどのように生かすことができるのか考えるという、社会と学びの循環を大切にしています。キャンパスを出て、社会の中の活動に参加してみると、より深く考えることができます。あなたも立ち直し支援の活動に参加して、生きた学びを体験してみませんか？

奈良大学
NARA UNIVERSITY

ならぶ Vol.181 ●発行:令和元年5月 ●発行:奈良大学 〒631-8502 奈良市山邊町1500 TEL:0742-441251(代) URL: <http://www.nara-u.ac.jp/> Email: kouhou@nagaku-nara-u.ac.jp ●編集:奈良大学広報室

ならぶ
Na Love

Nara University Bulletin Vol.181



何をどう学んだ？活躍する卒業生たち

豊かな自然と歴史遺産・伝統文化の息づく古都奈良という恵まれた学修環境の中、全国各地から集まった学生が学びを深めている本学。4月28日(日)には創立50周年を迎え、これまで25,000人の卒業生が社会に巣立ち、さまざまな分野で活躍されています。

本学で何を学び、身につけ、社会でどのように活かしているのか、2学部6学科の卒業生・在学生にお話を伺いました。

フィールド・アクティビティ
ディスカッション
地域連携・交流
史料調査
実習：箱庭制作
測量
演習
現物を見る：屏風の熟読

文学部		社会学部
国文学科	地理学科	心理学科
史学科	文化財学科	総合社会学科

Contents

- 1 巻頭特集
何をどう学んだ？
活躍する卒業生たち
- 9 トピックス
- 10 クローズアップ①
文学部地理学科の時枝稜さんが
本を出版！
- 11 クローズアップ②
本学所蔵 四天王像
「菅原寺」の墨書銘文発見！
- 12 オープンキャンパス
はじまる！
- 13 インフォメーション
- 15 研究室紹介
社会学部心理学科
廣井 いずみ 教授

新しい時代の 文化財保護を担う 学生の皆さんへ

近江 俊秀さん

- 文学部 文化財学科 1987年3月卒業
- 文化庁文化財第二課 主任文化財調査官



メッセージ

大学の学びとは講義だけではありません。その土地とのふれあい、人とのふれあいの経験もその後において大事な意味を持ちます。奈良という歴史ある土地で考古学に関心を持つ仲間と学ぶこと、それだけでも貴重な経験になるでしょう。

奈良の遺跡を見てみたい！

北上川河口に広がる宮城県第二の人口を擁する石巻市。それが私の生まれ育った町です。三陸海岸の付け根にあたり、沖合で親潮と黒潮とがぶつかる全国でも有数の漁場として知られています。こうした豊富な水産資源は、古くからこの地に住む人々に、豊かな恵みを与えたようで、市内には史跡沼津貝塚をはじめとする多くの遺跡があります。そうした遺跡を見て歩くことが、私の楽しみでもあり、それが考古学への関心へとつながっていきました。奈良大学へ進んだのも、奈良の遺跡を見てみたいという極めて単純な理由だったように思えます。大学生の頃の私は、お世辞にもまじめな学生とは言えませんでした。ただ、遺跡を見ること、発掘調査に参加すること、考古学の話聞くことは大好きで、そうした私に対し、教員方が大変温かく接してくれたことを今でも覚えています。個性を尊重し、それを伸ばすという奈良大学の教育方針が今の私の一部を形作っているように思います。

史跡指定と保護～生かされる同窓生との交流～

大学卒業後は大阪府八尾市教育委員会文化財室、奈良県立橿原考古学研究所を経て平成21年から現在の職場である文化庁に勤めています。文化庁の仕事は多岐に及び、埋蔵文化財保護に関わるありとあらゆる仕事をしています。中でも、最も学生時代の学びが生かされるのは、重要な遺跡を史跡として保護する仕事です。史跡指定は、単純に言うと地方公共団体の皆さんによる調査によって価値を解き明かされた遺跡を、国が設置する有識者による会議での審議を経て、文部科学大臣が指定するという手続きを踏みます。私たちの仕事は地方公共団体と有識者委員会との、いわばつなぎ役です。そのためには、全国各地のさまざまな遺跡に関心を持ち、それにしっかりと向き合う姿勢が大事になります。私の場合は、奈良大学で出会ったさまざまな地域出身のさまざまなテーマに関心を持つ同窓生たちとの交流があったからこそ、現在の仕事に取り組むことができている気がします。

求められる多様な人材

私が学生生活を送った時代は、まさにバブル経済まった中で、埋蔵文化財行政の仕事のほとんども開発で失われる遺跡を発掘調査し、その記録を保存することでした。今や時代は大きく変わるとともに、人々の価値観も多様化しています。私は、こうした新しい時代にふさわしい埋蔵文化財保護行政の在り方を全国の皆さんと考え、新たな道筋を模索したいと思っています。学生の皆さんへお伝えしたいのは、文化財専門職員といっても画一的な人材となる必要はなく、自らの個性を伸ばすことを目指して欲しいということです。研究機関の研究者を目指す方、地域に根差し地域の埋蔵文化財の魅力を発信する方、また、全く新しい発想で新たな事業を考案する方など、現在では多様な人材が求められています。そして、こういった方向を目指すにせよ、幅広い視野でさまざまなものに関心を持ち、物事を多角的な視野から分析し、新たな視点を生み出していく目を養うことを意識していただければと思います。

実際の体験から進路を決定！ 温かいおもてなしを 目指す



メッセージ

人生の岐路で私を後押ししたのは、「実際の体験」でした。OCでインターンシップで、実際に体験し、ここで学びたい！ここで働きたい！と思えたことが選択の決め手となりました。迷った時には、ぜひ実際に体験し、これだ！と思えることを見つけてください。

高瀬 碧さん

- 文学部 国文学科 2019年3月卒業
- 株式会社三井不動産ホテルマネジメント

この先生に学びたい！OCで聴いた講義

「文学に長けている大学」と高校の先生から薦められたことが奈良大学との出会いです。オープンキャンパス(OC)に参加すると、古都奈良ということもあり、落ち着いた環境で、特に魅力を感じたのは図書館でした。2019年度大学図書館ランキング(朝日新聞出版社)で1位に選ばれた図書館です。蔵書数が多く、素敵な雰囲気、これが大学の図書館なんだと感動したことを覚えています。

OCでもらった国文学科の資料の、光石亜由美先生の講義内容に目が留まりました。近代日本文学が専門で、文化史、女性史も研究されている光石先生が行った、文学作品の歴史的背景や、主人公の妻、妾といった作品に登場する女性の生き方をテーマにした講義でした。新しい視点に衝撃を受け、大学の学びの一端を知ることが出来ました。この先生に学びたい、と思ったことが入学の決め手でした。

議論の楽しさを学んだ大学時代

3年生のゼミ選択では近代日本文学を専攻し、光石先生のゼミに入りました。作品のオーソドックスな解釈をみんなで習う高校の授業と異なり、作品の時代的・文化的背景を調べた上で、自分の意見を持ち、学生同士が議論します。意見が分かれて論争になることもありますが、自分の意見を伝え、人の意見を聞き、新たな視点に気付かされます。例えば、絶望に思えた作品が、議論の後で、少し希望の見える作品へと捉え方が変化し、本の面白みが全く変わったことがありました。議論は国文学科の学びの醍醐味だと思います。私は議論を楽しみ、コミュニケーションの楽しさを改めて感じました。

学外では、地元の書店で2年間アルバイトをしました。地域密着型のお客様が気軽に質問できるお店で、お薦めの本を聞かれたり、読書感想文の本と一緒に選んだりしました。読書で蓄積した情報や大学で得た知識を使ってお客様のお手伝いをし、喜んでもらえることがうれしく、とても充実した経験でした。

インターンシップで出会った理想の先輩

大学生活を通して、お客様と接したいという思いを強め、就職活動の軸を「接客業」に置きました。就活で一番役立ったことは、インターンシップでした。企業風土や実際の業務内容などを知り、自分に合う・合わない、を見極めることを意識して参加しました。実際、当初希望していた業種は自分に合わないと感じ、ホテル業界に目を向けたところ、ここで働きたい！と思う会社と、そこで働く、理想の接客を体現されている先輩と出会うことができました。

日本の文学、文化、日本語を学ぶ国文学科の学びは、日本を知ること、自らの言葉で発信することにつながっていました。また、ゼミでの議論やアルバイトでの経験を通じて、一方的ではない意見の伝え方、人の意見を聞く傾聴力、柔軟な考え方や対応力が培われたと思います。これらの力をホテルの業務に活かしたいと思います。憧れの場所に入れたことに満足せず、お客様を包み込むような温かいおもてなしが出来るよう、理想の接客に近づけるよう、たくさんの方を吸収し、成長していきたいと思っています。

公認心理師を目指し大学院へ。 気づきが自分を成長 させた

小倉 真夢さん

- 社会学部 心理学科 2019年3月卒業
- 大学院 社会学研究科 臨床心理学コース



メッセージ

大学で学ぶ中で、私はたくさん気づきをえました。気づきはとて大切な事だと思えます。人から言われるより自分自身で気づく方が、すんなり受け入れられる、腑に落ちる、というところがあるからです。また、先生から「先生がいつか何でも正しいと思わないように」と言われたことがあります。疑問を持つたり、半信半疑で聞いて、正しい情報かどうかを自分で判断する必要がある、ということですね。ぜひ、疑問に思い、考え、いろいろなことに気づいてほしいと思います。

専門的知識と技術を身につける

心理学というと、人の心を読む、とか、心理テストのイメージが強かったのですが、大学に入って、いろいろな分野があり、さまざまな場所で役立つ学問だとわかりました。本学では、1年生で、心理学の基礎を習得し、2年生では少し広い範囲を学び、自分の関心のある分野を見つけます。また、研究に必要な方法論を実習で学びます。3年生から臨床心理学と社会心理学に分かれ、専門的知識と技術を身につけます。このカリキュラムは、専門分野を決める上で、自分に合っていました。大学では臨床心理学を専攻し、この春、臨床心理士・公認心理師といった心理職を目指して大学院に進学しました。

カリキュラムの学び以外にも、心理学科で得ることがたくさんありました。例えば、実習では心理テストを体験することがあります。自分にはこんな傾向がある、こういう考え方をするとということがわかり、自分のパーソナリティやアイデンティティについて考えるきっかけになりました。

一步踏み出す勇気と行動

本学の心理学科を選んだのは、オープンキャンパスで、心理学科の先生方が丁寧に温かく、気持ちに寄り添った対応をしてもらったことが大きかったです。入学後もそれは変わらず、とても頼りに感じました。奈良大学は県外から来て、一人暮らしをしている学生も多く、私もその一人です。不安を感じることもありましたが、先生、先輩など周りの人たちに声をかけ、アドバイスをいただきました。

周りの人に声をかける勇気がない、と思う人もいるでしょう。私もそうでした。引っ込み思案で自分に自信がなくて、行動できない。ある時、先生から言われた言葉が自分を少し変えました。「自信がないから行動できない、と言うけど、行動しないと自信はつかないよ」大学には、一步踏み出す機会がたくさんあります。勇気を出して、ぜひ行動してみてください。

対人支援のボランティア活動へ

「地域臨床実践研究会」という心理学科の先生と学生が参加する研究会で、「こんな募集があるよ」と対人支援ボランティアの紹介がありました。それまで自分から行動することをためらっていましたが、勇気を出して一步踏み出してみました。

それは学校に行けない子どもたちに寄り添う支援活動でした。まずは講義を受け、支援教室で働いている人の話を聞き、その後、子どもたちと接します。現場は自分の想像と違い、戸惑いましたし、間違ったことを言ったり、傷つけてしまったらどうしよう、とプレッシャーを感じました。支援教室の先生からは、「リラックスして声を掛けてくれたらいいよ、短期間で信頼関係を築けるとは思っていないから、難しさも含めて体験し、何かを感じてもらえればいいよ」と言ってもらいましたが、自分から働きかけることができました。今思っても反省ばかりですが、挑戦できたことはよかったと思っています。

目指すカウンセラー像を見つけたい

高齢者や障がい者をサポートする福祉分野における心理職にも、スクールカウンセラーなどの教育分野での心理職にも興味があり、将来は、自分が体験したような温かい支援をしたいと思っています。高校生の時、心理的に行き詰まり、学校に行けなくなり、カウンセリングを受けました。最初は「なんで知らぬ人に話さなアカンねん。信頼している先生に紹介されたから来ただけや」と思っていました。でも、赤の他人にだからこそ話せることを聞いてもらうようになり、心理的に助けてもらいました。通信制の高校に転籍し、大学に進学する、という道を、そして道は一つじゃないということを教えてくれたのもそのカウンセラーの方です。

目指すカウンセラー像は、大学院で学び、実習を通して考えていこうと思っています。それでは遅い、と言われるかもしれませんが、それが自分のペースだと思っています。今はカウンセリングの基礎をしっかりすることが重要だと思っています。

GISの魅力を発信する

岩瀬 智英さん

- 文学部 地理学科 2018年3月卒業
- ESRIジャパン株式会社



メッセージ

学生時代に、夢中になれることを見つけてください。夢中になれることがあれば、自信につながり、自分の強みになります。アルバイトでも、部活でも、何でも良いです。少しでもこの中で、ぜひ見つけてください。



西日本で唯一の地理学科へ

大学選んで、まず頭に浮かんだのは、「憧れの就職先に入れる学部学科はどこか?」ということです。当時希望していた会社は文系・理系を問わず幅広く採用していました。どの学部でもチャンスがあるのなら、自分のやりたいこと、好きなことを学ぼうと決めました。鉄道、旅行、地図が好きでフィールドワーク(現地調査)に興味のあった私は、地理学、観光学、地域政策学を中心に、授業内容も参考にしながら検討しました。そして、幅広い分野を学べる地理学に魅力を感じ、西日本で唯一、地理学科のある奈良大学に進学したのです。

挑戦する気持ちが未来を拓く

大学での時間を楽しく有意義に使いたい、という思いから、「大学に入ったならなんでもやってみよう」と決めていました。1年生の時、大学院生が私のグループを2、3年生対象の小巡検(フィールドワーク)に誘ってくれました。小巡検の食事の席で、担当教員の木村圭司教授が「ArcGISというGISソフト(ソフトウェア)を使ってポスターを作ってみない?」と声をかけてくれました。ESRIジャパン(株)が主催するGISフォーラムで掲示ポスターを募集していたのです。GISは、地図上にいろいろな情報を重ねていくシステムです。ArcGISを使ったことはありませんでしたが、「GISだと思うから難しいけど、お絵かきソフトだと思って」と言われ、みんなで挑戦することにしました。今振り返ると、「あんな難しいことを初心者がよくやったな」と自分でも感心します。パソコンに苦手意識があったはずなのに、楽しい気分で作ったのは、木村先生の教え方によるところが大きいと今ならわかります。



大学は、いろいろなことに挑戦し、自分の可能性を広げる場所です。自分から動けば、いくらかでも挑戦できます。私の場合は、先生や先輩と出会ったことでGISの魅力を知り、将来へとつながりました。規模の大きい大学と違い、先生と学生、学生同士の距離が近いと言われる本学だからこそこの経験です。

「GISを広める仕事に就く」

GISの知識やスキルを磨いていくと、GISを人に教える機会を得ました。通常は大学院生ですが、地理学科では勉強会などで3、4年生が教えることがあるのです。GISを使うと、数字の羅列が、地図上で視覚に訴える情報に変わります。初めて使う人は「すごい!」と大きな反応をします。「すごい割にはGISの世間での認知度はまだまだだよなぁ」と思った時、「GISを広める仕事に就く」という目標が固まりました。

私の会社は米国ESRI社のGISソフト(ArcGISファミリーなど)の日本総代理店です。自治体や建設コンサルティング会社などにソフトの販売・サポートをしています。昨年7月に研修を終えた私に任されることは、まだ多くはありませんが、今後、お客様にソフトを紹介したり、お客様の要望を伺って技術者に伝えたり、カスタマイズの提案を行っていきます。

先日、ソフトについて説明する機会を与えてもらいました。頭に浮かんだのは、「地理学科出身の営業社員は多くないので、大学での学びを活かすことが強みになる」という日頃からの上司のアドバイスでした。実習で学んだこと、先生から聞いた雑学を交えながら説明すると、「期待通り」と誉めていただきました。自分の強みを実感できたことが自信につながり、うれしかったです。また、「期待以上」と言われるようもっとスキルアップしなければ、と気持ちが引き締められました。

私はいつも環境に恵まれていると思っています。助言や指導をしてくださるメンターの先輩は、社内外からの信頼が厚く、重要な仕事を任されている優秀な方です。先輩を目標に、周囲の方々から刺激を受けながら、お客様にも会社にも信頼してもらえる営業になりたいと思います。

*GIS (Geographic Information System) : 地理情報システム

ビジネスで地域活性化を!

橋本 小真希さん

- 社会学部 総合社会学科 3年生



メッセージ

大学の講義は面白いですよ。先日の領内先生の講義では、大手自動車メーカーの前会長による事件をもとに、企業経営にかかわる法律などについて学びました。タイムリーな時事問題を事例に挙げて進められる講義は、大学ならではのものだと思います。興味を持って講義を聴くと、内容が頭に入りやすくなります。問題意識をもって講義を聴くことで、理解が深まると思います。

地元五條市を元気にしたい!

奈良県五條市を知っていますか? 昔の商家の町並みを残す五條新町通り(重要伝統的建造物群保存地区)や、国宝八角円堂のある榮山寺(えいさんじ)など、魅力ある名所旧跡をもつ五條市は、映画監督の河瀬直美氏が、1997年にカンヌ国際映画祭のカメラ・ドールを受賞した作品「萌の朱雀」を撮影した場所でもあります。私の地元である五條市は、こんなすてきなところですが、多くの地方都市が抱える問題、人口減少と少子高齢化に直面しています。私は総合社会学科で学んだことを地元五條市の活性化につなげたいと思っています。

総合社会学科は、3年生で「文化情報コース」か「経済経営コース」を選択し、より専門的に学びます。地域調査など地域の研究を深める「文化情報」コースにも魅力を感じましたが、私は「経済経営コース」の領内修教授のゼミ(演習)を選択しました。ビジネスで地域を活性化していく知識や手法などを学びたいと考えたからです。

社会体験実習で知る地域活性化の事例

2年生の時に、必修科目「社会体験実習」がありました。私は大和郡山市で行われている「金魚」をテーマにしたさまざまな地域イベントに協力する「K-Pool Project」を選択し、1年間活動しました。担当教員の中原洪二郎教授は、大和郡山市で地域に密着した調査研究を行っており、同プロジェクトを2011年度から毎年展開しています。

参加学生は毎年変わりますが、長く続けているプロジェクトですから、地域の人にも受け入れられていて、地域の飾らない様子を知ることができます。

参加して強く感じたことは大和郡山市の人たちが地域のつながりを大切にされているということでした。地域のつながりの希薄化が市町村の課題となっている現代において、大和郡山市の地域コミュニティは活発に機能していると感じました。また、空き家をうまく活用している事例を知り、とても勉強になりました。この体験も将来に生かしたいと思っています。

領内ゼミで「起業」について学ぶ!

私のゼミの指導教員である領内先生は奈良県出身で、銀行や企業で実務を経験されていた方です。そして「奈良を活性化させる起業家を育てたい」と公言されています。私も4月から始まった先生のゼミで、経営学や起業について学んでいきます。五條市での起業、ということ想定して、起業に必要な知識や事例を学びたいと思っています。地域活性化の施策として、若い世代の人たちを呼び込む取り組みが必要だと思うからです。将来については、自ら起業する道、友人など仲間を募って起業する道、自治体で起業を支援する道など、選択肢がたくさんある状態ですが、大学でさまざまなことを学び、地元五條市に貢献できる道に進みたいと思っています。

目標に向かって進んだ4年間。 地元福島に貢献したい！

古山 拓未さん

- 文学部 史学科 2019年3月卒業
- 福島県立図書館(福島県職員 司書職)



メッセージ

学生時代は、いろいろな可能性を見つけているのに遅いということはありません。頑張れば、可能性が広がるはずですよ。躊躇せず、目標に向かって行動して欲しいと思います。

漠然とした興味が明確な探究心へ

大好きな歴史を大学で専門的に学びたい。史学科を目指す多くの高校生が、そう思うのではないのでしょうか。私も、将来好きなことに関わる仕事に就き、大学での学びを活かしたいと思い、史学科を目指しました。

出身地に近い関東地方にも史学科を置く大学はありますが、世界遺産や歴史的建造物など、歴史の遺産が身近にある場所で学びたいという思いから、奈良大学を選びました。現地に赴き現物を見る、立地を活かした授業もあり、穏やかな環境で学びを深めることができました。授業以外でも、奈良・京都の史跡や寺院、神社などを巡り、充実した大学生活を送ることができたと思います。

大学での専攻は近現代史です。中世・近世の歴史が好きでしたが、オープンキャンパスに参加した時、日本近現代史を研究されている森川正則先生と話をし、気持ちに変化が起きました。「近現代」というと戦争のイメージが大きかったのですが、「今」という時代に密接につながっている「戦後」に興味をもったのです。ゼミを決める時にも森川先生と話をし、東日本大震災を契機に抱いた「原子力発電」への漠然とした興味が明確な探究心になり、森川ゼミで日本の資源とエネルギーの歴史について研究する、という気持ちを固めました。

学ぶこと全てが歴史学につながる

大学では、歴史を学ぶために、他分野の学問の知識が役に立つ、ということも知りました。本学では他学科の講義を受講することができるので、考古学や美術史といった文化財学科の講義や、地形・気候などの地理学科の講義など、歴史学に役立つ知識を得ることができます。

私自身、強く印象に残っているのは、応用心理学と環境論です。応用心理学は「あたりまえは本当にあたりまえか？」と、社会的常識を社会心理学の立場からとらえなおす内容でした。歴史上の社会現象を理解する上で役立ち、また、思い込みは禁物、という歴史調査の心構えを再認識できました。環境論は、環境保全について学ぶことができ、卒業論文を書く上で参考になりました。過去の事実を明らかにし、その意味を考え、今に役立てる歴史学に、大学で学んだこと全てがつながっていると思います。

人と本をつなぐ図書館司書に

卒業後の進路は、入学の時から、Uターン就職を視野に公務員になりたいと考えていました。歴史の記録を後世に伝える博物館学芸員、歴史を含め大好きな本に関わることでできる司書を目標に、資格取得や試験対策を4年間で計画的に実行し、無事2つの資格を取ることが出来ました。公務員試験は、大学のバックアップ講座なども活用して勉強を重ねました。努力が実り、司書の資格免許職として福島県の内定をいただきました。

活字離れ、読書離れと言われていますが、本を読むことは、老若男女問わず、生きていく上で大切なことです。知識や教養を蓄えるだけでなく、考える力や表現力など、人を育てるものです。図書館司書として、ディスプレイを工夫したり、イベントを実施するなど、少しでも本に興味を持ってもらい、人と本をつなぎたい、読書を楽しむ習慣づけを通して人を育てたいと思っています。周囲と協力しながら、考え、実践し、福島県のよりよい未来に貢献できるよう頑張ります。

積極的にキャンパス外 での学びをもとう

奈良大学 文学部 文化財学科

魚島 純一 教授(保存科学)

- 文学部 文化財学科 1987年3月卒業



メッセージ

これから文化財の専門職を目指すという学生たちに伝えておきたいことは、学びの場はキャンパスだけではない。もっと広い視野を持ってまわりを見渡して、先生方を含め周囲の多くの人と積極的に接するようにしてほしいと言っています。広い視野を持つことは学問に対する姿勢としても言えることです。知らないこと、新しいことに目を向けることはエネルギーが必要ですが、その先には、これまで知らなかった自分を見つめることができると信じています。

「現地現物主義」の本学で「保存科学」と出会う

私が日本初の「文化財学科」を開設した奈良大学に入学したのは、今から36年前のことです。小学生のころよく父に連れられて行っていた奈良・明日香で高松塚古墳の壁画が発見され、あたりまえのように考古学に興味を持っていました。開設5年目だった当時の文化財学科の定員はたしか40名ほど。少人数で文化財のエキスパートである先生方に教わるのができたことは、今から考えればなんと贅沢なことだったでしょう。当時から文化財学科の motto は「現地現物主義」で、とにかく自分の足で文化財のあるところに出かけ、自分の眼で文化財を観るようになっていました。真面目な学生ではなかったので授業のことはあまり記憶にありませんが、授業外で先生の調査に同行したり、お手伝いをさせていただいたりしたことは今でも鮮明に覚えています。

考古学を学ぶために入学した私は、大学で初めて「保存科学」という学問に出会い、まさか一生の仕事になるとも知らずに、初めて知った新しい世界へと入っていったのです。

現場での経験が大きな成長に

卒業するころには、漠然と文化財や保存科学に関する職に就きたいとしか考えていなかった私は、同級生が次々と専門職への就職を決めていくなか、まったく就職が決まる気配もなく、3年生のころからお世話になっていたとある文化財センターで嘱託職員として出土遺物の保存処理のお手伝いを続けさせていただくことになりました。大学の実習で入り口を学び、実際に文化財の現場で経験を積んだことは、私を大きく成長させてくれました。また、現場で活躍する多くの方々と接するなかで、文化財の専門職に必要な文化財への愛を知ることもできました。その後、別の文化財センターの嘱託を経て、運よく徳島県の博物館の学芸員として採用されることになった私は、ここでもまた多くの先輩や上司から文化財への接し方について教わるのができたのです。



夏休みに学生たちとおこなっている文化財調査

Topics

1月 January

22日 留学生送別会 & 派遣留学生壮行会



1年間の交換留学を終える中国・韓国からの2018年度受入留学生7人の送別会、及び今年2月～3月より中国・韓国の協定校へ派遣される2019年度派遣留学生4人の壮行会が開かれました。市川良哉理事長、清水哲郎学長をはじめ、指導教員、事務職員、在校生、卒業生など約60人が参加し、留学生を激励しました。

中国・蘇州科技大学に留学する派遣留学生の辻本圭太朗さん(国文学科3年生)は「不安はありますが、派遣先では自分から行動して頑張ります。」と留学への意気込みを語りました。

2月 February

13日 奈良市との包括的連携協定

本学と奈良市は、包括的な連携のもと、教育、文化、産業、まちづくり等の多様な分野において相互に協力し、地域社会の発展と人材育成に寄与することを

目的に「奈良市と奈良大学との包括連携協力に関する協定」を締結しました。

調印式は奈良市役所で行われ、清水哲郎学長と仲川げん市長が協定書に署名しました。



左:清水学長 右:仲川市長

3月 March

19日 学位記授与式

平成30年度の奈良大学卒業証書・学位記授与式及び大学院学位記授与式が講堂で盛大に挙行され、540人の卒業生が、希望を胸に巣立って行きました。



4月 April

2日 入学式

平成31年度の奈良大学・奈良大学大学院入学式が講堂で執り行われました。

学部711人、編入学2人、大学院28人と通信教育部246人の総勢987人の入学者が、奈良大学での新たな一歩を踏み出しました。



市川理事長告辞

8日 「令和」の時代を生きる君たちへ—国文学史 I

文学部国文学科の上野誠教授が新元号の由来となった『万葉集』巻5「梅花の歌32首」の序文について特別講義を行いました。「令和元年に大学生活を始める新1年生に「令和」を語りたかった。」という上野教授の講義は、一般の方にも特別公開され、約140人が参加しました。この様子は、ニュースや新聞などたくさんメディアに取り上げられました。



■ クローズアップ①

『スマホで簡単！GISを用いた防災マップ～「地理総合」の教材例～』文学部地理学科の時枝稜さん(2019年3月卒業)が出版！



3月19日の卒業式を前に、文学部地理学科4年生(刊行当時)の時枝稜さんが、「スマホで簡単！GISを用いた防災マップ」を出版しました。卒業論文をもとにしたこの本は、第1章「スマホでみる防災 GISコンテンツ」、第2章「海外の教育カリキュラムにおけるGISの位置づけ」で本文が構成されています。2022年から実施される高等学校学習指導要領 地理歴史編「地理総合」の内容に沿った教材用コンテンツを提案し、高等学校の地理歴史教員の皆さまに活用してもらえます。また、「日本の活断層分布」や「避難施設データマップ」などの「防災」に焦点をあてた10の事例全てに、卒業論文の指導教員で、共著者の木村圭司教授による防災メモが書かれており、防災知識の啓蒙にも役立つ一冊です。



GISコンテンツ「SONIC」

時枝さんは、木村教授の助言を受けながら、GIS教育に先進的に取り組んでいるアメリカをはじめ、世界の事例を基に、日本の教育に適応させていく研究成果を卒業論文『2022年高等学校「地理総合」必修化におけるGISの活用と課題』にまとめました。その中で、高校生がGISに身近に触れて興味を持ち、多忙な教員でも分かりやすい授業が行えるようスマートフォンやタブレットを活用したコンテンツを作成しようと思いつきました。題材として、まず着目したのがハザードマップです。「スマホで簡単に見ることができれば、教育コンテンツとしてだけでなく、災害の際にも役立つ」と考えたからです。そして、今までの情報は、「データとして存在するだけ」であったり、「検索して表示するまでに時間や手間がかかる」ことが課題として、データを一目見て分かるように加工したり、情報に簡単にアクセスできるように二次元バーコードを用いるなど、ユーザーフレンドリーなコンテンツの作成に取り組みました。

完成したWEB GISコンテンツ『SONIC』は、Speedy(素早く表示できる)、Original(独創的なもの)、Necessity(GISの必要性を知る)、Interesting(GISの面白さを知る)、Contents(以上のような希望を持った内容)の頭文字を取って時枝さんが命名し、「みんなに使ってもらいたい」という思いから、大学ホームページで公開しています。

4月から大分県で教員としての新しい生活をスタートさせた時枝さんの意志を継ぎ、「SONIC」は地理学科の後輩が引き継ぎ、コンテンツのデータ更新や拡充を進めています。

GISと奈良大学

GIS(Geographic Information System:地理情報システム)は、地理的位置を手掛かりに、位置に関する情報をすべて地図に表示し、高度な分析や迅速な判断を可能にする技術です。本学にGISを導入したのは碓井照子名誉教授で、阪神淡路大震災(1995年1月)では、直後から本学教員・学生らによる奈良大学防災調査団を組織し、GISを利用した復興調査を実施しました。以降、奈良大学ではGISの研究に加えて、その普及にも注力しています。現在、本学地理学科でGISを専門とする専任教員は酒井高正教授と藤本悠講師ですが、研究のための有用なツールとして、木村圭司教授をはじめ地理学科の多くの先生がGISを活用しています。

告知

7/31(水)

「学校教員研修支援オープン講座」開催！

本学では、学校教員研修支援オープン講座として、奈良県・大阪府・京都府など本学近隣府県の教員を対象とした講座を開いており、今年度もGISをメインテーマとして7月31日(水)に開催します。受講には事前申し込みが必要ですので、本学ホームページ(<http://www.nara-u.ac.jp/research/>)にて詳細をご確認の上、お申し込みください。

- 開催日時:令和元年7月31日(水) ①13:00~14:30 ②14:40~16:10
- テーマ:「地理授業へのGIS(地理情報システム)の導入例と簡単な実習」
- 講師:①木村圭司教授 ②酒井高正教授
- 定員:各48人(先着受付順) ●受講料無料/事前申し込み要
- 対象:学校教員(幼稚園・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校/非常勤も含む)

6/9(日)

「GIS day in 奈良 2019」開催！

6月9日(日)の本学オープンキャンパスでは、「GIS day in 奈良 2019」を同時開催します！GIS体験実習や企業による展示、またGIS相談コーナーもあります。ぜひお越しください！

■クローズアップ②

本学所蔵 四天王像

「菅原寺」の墨書銘文発見!



四天王像



多聞天像から見つかった墨書銘文

本学所蔵の木造四天王像(持国天・増長天・広目天・多聞天像)の修理過程で、広目天像から「行(行基)御作 菅原寺 大小廿(二十)八之内」が、多聞天像から「行基大菩薩御作 菅原寺」など、6か所から墨書銘文が発見されました。墨書にある菅原寺は、「法相宗別格本山喜光寺[きこうじ]」(奈良市菅原町508番地 山田法胤[やまだほういん]住職)のことで、

四天王像は、もと奈良県大和郡山市の額安寺[かくあんじ]に伝来したもので、平成17[2005]年に本学が譲り受けました。阪神・淡路大震災(平成7[1995]年)で被災し、破損していたため、平成26[2014]年度より、修復実習などで順次調査を行い、仏像修復技術者山口正芳氏(愛知県瀬戸市)のもとで解体修理と台座の補作を行ってきました。

この修理で、四天王像は平安時代末期から鎌倉時代前半期に制作されたことがわかりました。また、4体ともに頭部が江戸時代のものになっているほか、たくさんの小材を使い丁寧に修理されていました。修理は数回にわたり、最後の修理は享保15[1730]年と考えられます。

四天王像については、石田茂作『飛鳥時代寺院址の研究』(昭和11[1936]年刊行)の中の「熊凝精舎(くまごりしょうじゃ)」(額安寺)の項に菅原寺(現・喜光寺)から移されたものと言われている、との記述があり、当初は菅原寺にあったという言い伝えが紹介されています。墨書銘文が発見されたことで、四天王像が菅原寺にまつられていたことが裏付けられました。

さらに、類例があまりない細部にわたる丁寧な修理を、数度にわたり施されているのは、四天王像が行基ゆかりの「菅原寺」に伝わったことで、いつしか行基作の伝承を持ったからだと考えられます。東大寺(華厳宗大本山東大寺)の大仏(盧舎那仏像)造立や慈善事業に尽力した僧として広く信仰されている「行基菩薩」。その行基が作った像と伝えられ、四天王像は大切に守られてきたのではないのでしょうか。

記者発表と特別講義を実施

1月26日(土)、28日(月)には四天王像の公開と記者発表を行いました。修復を終えた持国天・増長天・広目天像の3体と、修復前で解体したままの多聞天像を前に、関根俊一副学長(文学部文化財学科教授・日本美術史)と山口氏が、修理の過程での発見などについて解説しました。

また、文学部文化財学科の学生を対象とした「美術史特別講義」も行われ、出席した学生たちは目を輝かせ、活発に質問していました。



解体した多聞天像を前に説明する山口氏(台上左)と関根副学長(台上右)

喜光寺でのさとがえり公開後、50周年記念館(仮称)で一般公開

5月2日(木)に、喜光寺にて、「四天王像おかえり法要」があり、市川良哉理事長、関根俊一副学長が参列しました。9月2日(月)までの「奈良大学蔵 四天王像 さとがえり公開」(主催:喜光寺 協力:奈良大学)の開白にあたり、月例の法要にあわせて四天王像の入魂と供養が行われました。四天王像は、明治の廃仏毀釈の際に寺を離れたと推定されることから、約150年ぶりのさとがえりとなりました。

喜光寺での「さとがえり公開」後は、今秋完成する新館エントランスホールにて、四天王像を常時展示します。



関根副学長、学生、大学院生による公開準備

喜光寺での「四天王像おかえり法要」

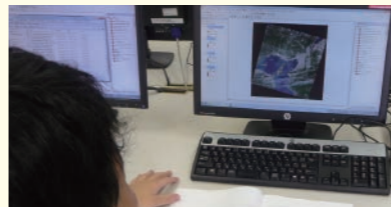
オープンキャンパスはじまる!

予告 体験講義&体験実習

体験実習 文学部 地理学科

GIS体験

地理情報システム(GIS)やリモートセンシングと呼ばれる衛星画像を解析する実習を開催します。



体験講義 文学部 史学科

「皇紀2600年」と奈良 —五輪と万博の話もからめて

「皇紀2600年」に目を向けます。この頃に日本でのオリンピックと万博が予定されていました。本学図書館の文献史料を使って調べてみましょう。



体験講義 文学部 文化財学科

絵巻物—平安時代のアニメーション—

絵巻物についてお話しします。さらに、複製を実際に巻いてみましょう。



体験講義 社会学部 心理学科

「効果的なリーダーシップとは？」

チームの力をうまく引き出すために必要なリーダーシップについて考えてみましょう。

体験講義 文学部 国文学科

『令和』をめぐる国語学

体験講義 社会学部 総合社会学科

「日本企業の針路」

学生とフリートーク

学生スタッフと自由に話してみよう。学生生活のこと、下宿のことなど、なんでも質問してください。



学食体験&スイーツイベント

日程により内容が変わるのでHPをチェック!



OC限定オリジナルバイキング(写真は昨年度の模様)



数量限定スイーツ

多彩なプログラム満載!

まずは気軽に参加して、奈良大学の雰囲気を実感しよう♪

オープンキャンパス(10時~15時):

6月9日(日)、7月7日(日)、7月28日(日)、8月25日(日)、
2020年3月20日(金・祝)

大学祭体験&入試相談(10時~15時):

11月4日(月・振休)

大学見学会(全日程:13時~15時):

5月18日(土)、10月12日(土)、12月14日(土)

大学講義見学デー(10時~16時30分):

9月23日(月・祝)

入退場自由
WEBでも
チェック!
予約不要



6学科の体験講義や体験実習を実施!内容は日程によって変わるので、HPで確認して、興味のあるものに参加してみよう!

Information

創設者・藪内敬治郎先生の命日墓参



学校法人奈良大学の創設者である藪内敬治郎先生の命日にあたる4月21日(日)、市川理事長、清水学長、法人役員、本部事務局職員らが藪内先生の眠っておられる念仏寺(奈良市)を訪れました。ご遺徳を偲んで、今年も市川理事長による読経の後、参列者らが藪内先生とご遺族の墓に線香をたむけ、手を合わせました。

奈良大学公開講座

本学では、公益財団法人 奈良市生涯学習財団との共催事業として、公開講座「夏の夜話2019」を開催します。「国際対立の壁は越えられるか?—国家、民族、異文化の葛藤—」をテーマに本学社会学部の教授による講座を3回にわたり実施します。申込方法は、奈良大学ホームページ(<http://www.nara-u.ac.jp>)をご覧ください。

主催:奈良大学・公益財団法人奈良市生涯学習財団
会場:奈良市立中部公民館(奈良市上三条町23-4)

回	開講日	演題/講師
1	7/5(金) 18時~	国際理解の困難性と可能性~異文化の壁に向き合う~ 総合社会学科教授 中原 洪二郎
2	7/12(金) 18時~	米中衝突 テクノ・ナショナリズム 総合社会学科教授 領内 修
3	7/19(金) 18時~	日本人は「集団主義的」なのか? 心理学科教授 村上 史朗

人事関係

<4月1日付人事異動は下記の通り>

●就任▽文学部長/文学研究科長・今津節生▽社会学部長/社会学研究科長・新宮一成▽図書館長・関根俊一(=再任)▽総合研究所長・関根俊一(=再任) ●昇任▽文学部国文学科教授・丸田健▽文学部史学科教授・村上紀夫▽文学部地理学科教授・稲垣稜▽社会学部心理学科教授・村上史朗 ●新任採用▽文学部国文学科教授・三宅晶子▽文学部国文学科教授・岸江信介▽文学部国文学科教授・堀川忠道▽文学部国文学科講師・山田昇平▽文学部史学科教授・内田聖二▽文学部史学科教授・川本正知▽文学部文化財学科教授・床谷文雄▽文学部文化財学科教授・嶋田学▽社会学部心理学科教授・井村修▽社会学部心理学科教授・太田仁▽社会学部心理学科講師・宮島健▽社会学部総合社会学科教授・竹中浩

<3月31日付は下記の通り>

●退職 ■定年規程第2条による退職▽社会学部心理学科教授・田原武彦▽社会学部心理学科教授・前田泰宏 ■定年規程第3条による退職 ▽文学部国文学科教授・石川一▽文学部史学科教授・内田聖二▽文学部文化財学科教授・中尾

敏充 ■依願退職▽社会学部総合社会学科教授・芹澤知広 ■契約満了による退職 文学部国文学科教授・柏原卓▽文学部国文学科教授・元根俊孝▽社会学部総合社会学科教授・田中文憲▽文学部文化財学科准教授・家禰淳一

『奈良大学創立50周年記念 第13回全国高校生歴史フォーラム』開催のお知らせ

本学・奈良県主催「全国高校生歴史フォーラム」を今年度も開催します!全国の高校生の皆さまからの、歴史や地理、史跡、文化財、文学、人物などに関する研究レポートを募集します。

●締め切り:9月4日(水)(当日消印有効)
●優秀賞、佳作の発表:10月11日(金)に、本学及び奈良県のホームページで行います。

優秀賞受賞者(グループの場合は代表者)は、11月23日(土)に奈良大学で行うフォーラムに招待し、成果発表をしていただきます。優秀賞のうち特に優れた成果に対し、学長賞(1編)、奈良県知事賞(1編)、奈良大学創立50周年記念特別賞(1編)を授与します。また、佳作に選出されたレポートについては、フォーラムでポスター掲示をしていただきます。

詳細はホームページ(<http://www.nara-u.ac.jp/forum/>)をご確認ください。お問い合わせは、同実行委員会(0742-41-9588)まで。



奈良大学創立50周年記念事業募金

教育・研究の更なる充実と飛躍を図るため、9月竣工予定の新棟の建築をはじめ、教育・研究施設の充実を進めています。

本学がこれまで蓄積した資産と信用をもとに取り組んで参りますが、これに加えて日頃本学に深いご理解とご協力をいただいております皆さまのお力添えを賜りたく存じます。格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

募金名称:奈良大学創立50周年記念事業募金
募金種別:【個人】1口 2万円
※なるべく2口以上のご協力をお願いいたします。
1口未満のご寄付も、ありがたくお受けいたします。
【法人】1口 10万円
※口数にかかわらず、ご協力をお願いいたします。
募集期間:2018年7月11日(水)~2019年12月20日(金)まで
お申込・お問い合わせ先
奈良大学創立50周年記念事業募金委員会事務局
(奈良大学総務課内/TEL:0742-41-9501)

近刊紹介~本学名誉教授・教員の著書~

◆歴史文化への視座

学校法人奈良大学・理事長/奈良大学名誉教授
市川良哉 編著
文学部地理学科教授・土平博 共著
丸善雄松堂 2019年2月発行



◆古代東アジアの文字文化と社会

文学部史学科・教授 角谷常子 編
文学部名誉教授・東野治之 共著
文学部史学科・寺崎保広 共著
臨川書店 2019年3月発行



◆近世日本の貧困と医療

文学部史学科・教授 木下光生 共著
古今書院 2019年2月発行

◆Public Goods Provision in the Early Modern Economy

文学部史学科・教授 木下光生 共著
University of California Press 2019年1月発行

◆奈良大ブックレット07

自然と人間 奈良盆地に生きる
文学部地理学科教授・木村圭司/稲垣稜/
三木理史/池田安隆 著
ナカニシヤ出版 2019年3月発行



◆弥生文化の起源と東アジア金属器文化

文学部文化財学科・教授 小林青樹 著
塙書房 2019年3月発行

◆怪異学の地平(東アジア怪異学会 編)

文学部史学科・教授 村上紀夫 共著
臨川書店 2019年2月発行

◆Broadcast:ABC WORLD NEWS TONIGHT

一映像で学ぶABCワールドニュース
文学部文化財学科・教授 山根キャサリン
共編著
金星堂 2019年1月発行

文学部文化財学科・卒業生で公益財団法人元興寺文化財研究所副所長の狭川真一さん選歴記念論集『葬送・墓・石塔』が刊行されました!購入方法のお問い合わせは「狭川真一さん選歴記念会事務局」(kumichokai@gmail.com)まで。

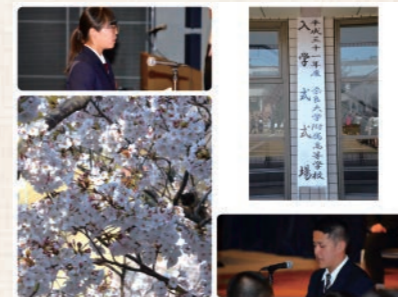
附属高等学校

入学式

4月7日(日)奈良大学講堂にて入学式が行われ、新入生291名が新たな生活への期待に胸を膨らませ、高校生活をスタートさせました。

式では、真新しい制服に袖を通した新入生が、保護者や教職員から拍手で迎えられ講堂に入場し、担任教諭から一人ずつ呼名され、校長先生から入学を許可されました。

新入生を代表して、柴田ひよりさんが「全力で努力し、確かな成長を遂げることを誓います。」と宣誓、また、歓迎の辞として杉田弘海生徒会長が「自分と向き合い、充実した高校生活を過ごしてほしい。」と述べました。式後は、2・3年生有志による校歌紹介が行われ、会場いっぱい歌声がひびきました。



附属幼稚園

お別れ会

卒園式まであと数日の3月5日(火)にお別れ会をしました。前日に年少児が届けてくれた招待状を握りしめ、年長児はわくわくした表情でした。まずはホールでのカレーパーティーです。招待状の裏に書かれたグループ分けを見ながら、年少児を迎えに行き、カレーを配膳し、食べ終わるまで優しく見守る姿に、さすがお兄さんお姉さんだあと感心しました。食後は、縦割りチームに分かれての玉入れ対決と目玉焼きゲーム。それぞれのチームを応援し、大盛り上がりです。最後に歌と、年中児手作りのプレゼントをもらい、大好きな「パプリカ」の曲に合わせて見送られた年長児たち。少し照れ臭そうに、けれどとても嬉しそうに手をふりながら、もう一方の手でプレゼントを握りしめ、ゆっくりゆっくりスロープを歩いて保育室に帰りました。



カレーパーティー